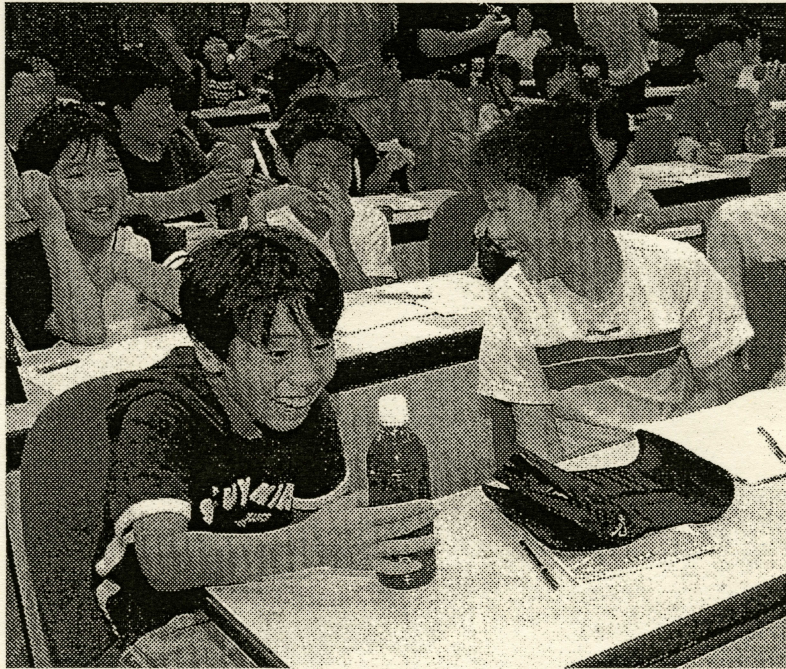


再利用の大切さ学ぶ

液肥利用の循環型農業



液肥が入ったペットボトルを手にする児童

児童対象に椎田町が授業

椎田町文化会館コマーレで三日、し尿を農作物の肥料として再利用する「循環型農業」について、町職員が子供たちに説明する授業が開かれた。

同町は一九九四年から、町内で回収したし尿を液状堆肥(液肥)にする事業を手掛けており、液肥で農作物を育てる「循環型農業」の普及に取り組んでいる。

二年前からは、「循環型農業」について理解を深めてもらうと、町内の児童を対象にした授業も実施している。

この日は、椎田小(西弘校長)の五年生約五十人が参加。町産業課の下田大吾郎さん(32)が講師を務め、子供たちにペットボトルに入った液肥を見せながら、年間約一万リットの液肥が製造

されていることなどを説明した。

また、リン酸を多く含む消火薬剤を利用して、液肥の成分を改良する取り組みについても紹介し、「廃棄物をどのように利用するか考えることで、きれいな環境で生活出来るようになります」と呼び掛けた。

授業を受けた村岡璃子さん(11)は「再利用すること

の大切さがよくわかりました」と話していた。